

北海道芸術デザイン専門学校 教科目概要(授業カリキュラム)

職業実践専門課程 環境デザイン学科(2年制)

クラフトデザイン専攻

※2025年度実績

教科目	概要	1年次	2年次	
工芸概論	伝統工芸の基礎知識、技法を学び、演習課題を通して継承されている手仕事の技術を学ぶ。	○		
クラフトデザイン演習	クラフトデザインの歴史、素材背景を木工、金工、貴金属工芸、陶芸の分野において学ぶ。また生活工芸品という人と物との関わり方の理解を深める。	○		
DTP演習 I	Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。プレゼン資料を作成ができる。	○		
DTP演習 II	Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトを使い、画像やテキストを編集する能力を身につけ、各クリエイター能力試験取得を目指す。		○	
CAD演習	三面図の作図から3Dモデルまで、CADソフトによる家具デザイン、システム理論、操作方法を学ぶ。CAD検定取得を目指す。		○	
デッサン	描画技法の基礎授業。対象の観察にはじまり、形態や空間の把握と描写力を身につけ、質感、量感、動静の表現力を養う。	○		
造形デザイン	平面構成、立体構成、造形の基礎知識を演習課題を通して身につける。	○		
製図デザイン	JISに基づく製図法を用いて三面図の作図と各種透視図法を学び、さらに図面から実制作まで一連に行うことで具現化への理解を深める。	○		
立体表現	立体造形の基礎授業。可塑性を使いながら三次元の演習課題に取り組み、表現の拡張と、それに伴う要件の解決を考えることが目的。	○		
木工基礎演習	木材の基礎知識、木工技術の基礎技法、道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	○		
陶芸基礎演習	陶土、釉薬、焼成方法の基礎知識、陶芸の基礎技法、道具の使い方を学ぶ。	○		
鑄造基礎演習	銀を使って、アクセサリー基礎演習課題制作。ロストワックス技法の習得を目指す。	○		
金属加工基礎演習	金属の知識、加工技術を学ぶ。切削、ジョイントを主体に道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	○		
木工演習 I	ツールや箱の課題制作を行い、木材の加工、組み立て方、仕上げの流れを学び、段階的に技術向上を目指す。	○		
陶芸演習 I	ろくろの基礎技法を茶碗やカップなどの課題制作を通して身につける。	○		
金工演習 I	金属の工芸技法である、鍛金-たんきん-を課題制作で学ぶ。	○		
鑄造演習 I	基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。	○		
陶芸演習 II	工芸的な技法を取り入れながら、様々な土や、釉薬を使うことによって性質理解と技術向上を目指す。	○		
金工演習 II	様々な金属を使い表札を制作。その加工技法で、性質理解と技術向上を目指す。	○		
(選 工 芸 研 究 科 目)	木工演習 II	多様な木材の知識、加工技術を基に演習を通してツールボックス制作を行う。	○	
	貴金属加工演習	宝飾、彫金技法の基礎を学ぶ。バーナーによるロー付けを主体に、課題制作では技術理解をすすめる。知識として貴金属(金やプラチナ、銀)、宝石を学ぶ。		
プランニング	デザイン製品を実制作するまでの過程を学ぶ。企画立案から素材研究、製品の試作、完成品の提出とプレゼンテーションを行う。	○		
プレゼンテーション I	情報発信のスキルを向上する授業。他者に向けて伝える力、伝わる表現方法を実践的に学ぶ。	○		
プレゼンテーション II	テーマコンセプトを明確にし、三面図や完成予想図をともなった資料作りから発表までを行い、技術向上を目指す。また就職に向けてのポートフォリオ制作。		○	
プロジェクト計画	新しいことに挑戦し価値を生み出す制作において、目的・目標計画と、実行計画を立てる。工程の記録をファイリング、試作と振り返り、製作へのフィードバックといった、商品や製品の開発におけるワークフローを身につける。		○	
色彩演習	デザイン構成要素、色彩について基礎的な理論を学ぶとともに、色彩士検定3級取得を目指す。	○		

北海道芸術デザイン専門学校 教科目概要(授業カリキュラム)

環境デザイン	社会や人との関わり合いを学び、コミュニケーション能力を高める総合学習。ものづくりの背景理解として地域と資源活用、暮らしと生活について、課題研究、成果発表を行う。	○		
空間表現	作品制作において、要素、素材、技法による造形的可能性を広げる目標を持つ。演習課題での造形物制作では、イメージを伝達できる力をさらに高める。		○	
専門技術演習 (選択科目)	木工演習Ⅲ	本格的な家具を作る演習授業。大型機械の実践的な使用、治具制作、旋盤加工を学ぶ。		6 科 目 選 択 (2 年 次)
	陶芸演習Ⅲ	穴窯焼成の実践授業。作品制作から薪で焚く窯の性質を学び、焼成作業まで一連の制作過程の理解を深める。		
	鑄造演習Ⅲ	宝飾に要する成形や石留技法といった彫金の加工方法を学ぶ。		
	金工演習Ⅲ	演習課題制作を通して、銅、アルミニウム、鉄、それぞれの加工方法を広く学ぶ。		
	木工演習Ⅳ	本格的な家具を作る演習授業。特殊電動工具などの実践的な使用、治具制作、組み立てに関する接ぎ手の技法を学ぶ。		
	陶芸演習Ⅳ	組み物、大型作品や注器などの制作に取り組み、型づくり、展開図など造形技法を学ぶ。酸化、還元などの焼成方法も学ぶ。		
	鑄造演習Ⅳ	ロストワックス製法を中心に、異素材を組み合わせたオリジナル装飾品制作し、スキルアップを図る。		
	金工演習Ⅳ	象嵌、柰目金といった、伝統的な金属加工の技法を学ぶ。		
	木工演習Ⅴ	伝統的な生活工芸品を制作。手道具から特殊電動工具などの実践的な使用、治具制作、組み立てに関する接ぎ手の技法を学ぶ。		
	陶芸演習Ⅴ	屋外型の窯で焼成の仕組みを知る。「穴窯」または「登り窯」の焼き方を実践的に学ぶ。		
	鑄造演習Ⅴ	ロストワックス製法を中心に、石留リング、セット物の制作といった、実践的な課題制作に取り組む。		
	金工演習Ⅴ	鉄を素材にした課題制作で、アーク溶接、TIG溶接といった接合加工とアセンブリの技術を学ぶ。		
	造形演習Ⅰ	可塑性、実材を組み合わせた課題制作を通して、気づきや発見を掘り下げる研究授業。		
	造形演習Ⅱ	レーザー加工機の使用方法を学び、デスクウェアを制作。様々なクラフト品の可能性を広げる授業。		
	素材研究Ⅰ	成形方法の知識を広げる課題に取り組む。大型鑄造の成形方法や、屋外で行う楽焼、縄文式野焼きに取り組む、準備や手順の内容を理解する。		
素材研究Ⅱ	地域、社会、人との関わり合いをものづくりを通して研究する。行政、企業からのデザイン課題やコンペ課題に取り組む、実践的な制作を行う。			
進級制作	実材作品、プレゼンテーション資料など規定の課題数を提出、発表を行う。1年次最終課題でもあり、1年間の総合的な学習成果が求められる。	○		
卒業制作	在学中に学んだ専門知識技術などの専攻色を十分に生かして、自らテーマを設定した数週間の長期制作。まさに各自のメモリアルワークとなる。		○	
一般教養	英語	アート、デザインの視点で、英語の運用能力を養う。	○	
	一般教養	社会人としての一般教養、常識、礼儀等を学ぶ。	○	
	前期課題制作	情報収集を行い、自らのデザイン思考をまとめた資料提出。	○	○
	後期課題制作	コンペチャレンジ、オリジナル制作のプランニング。	○	
	企業研究	企業としての考え方、仕事の仕方を情報収集する。講習会やワークショップに参加し、最新の企業の取り組みを知る。		○
	業界研究	業界と職種構成。企業が望む人物像を学ぶとともに、自分の希望業種、職種を理解し、就職活動目標を定める。		○
総履修単位時間		1,200	1,200	
取得目標資格	在学時：建築CAD検定、ガス溶接技能者、Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験、福祉住環境コーディネーター、色彩士検定、ビジネス能力検定ジョブパス、貴金属装身具製作技能士など			

北海道芸術デザイン専門学校 教科目概要(授業カリキュラム)

※1年間で1,200単位時間、2年間で2,400単位時間学びます。

(2026年度入学生から単位制に変更になります。授業時間については、1年間で900単位時間、2年間で1,800単位時間となります)

※時勢や企業のニーズにより、内容が変更になることがあります。